

事業活動報告

事業所名：第二かめおか作業所

1、2021年度 事業所方針
<p>『なりたい自分』を手応えに</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 「じぶんらしく」働くを創ります。 <ul style="list-style-type: none"> ・ディーセントワークの学習 ・「やりたい・できる・できた」を実感できる分かりやすさを進めます。 ■ 「みんなとともに！」を大切に“つながり合う”集団作りを目指します。 <ul style="list-style-type: none"> ・「みんなの中の自分」を意識できる役割・活動を大切にします。 ・分かりにくさに配慮した環境づくりをして集団に参加できる場を作ります。 ■ 生活・健康を守る支援を進めます。 <ul style="list-style-type: none"> ・健康に生活できる環境づくり（新型コロナ感染予防） ・本人を支える家族の状況・実態にも目を向けて、連携を密にしていきます。 ・居宅生活支援部・相談支援とも連携しメンバーの実態を共有し、ネットワーク支援を進めます。 ■ “チーム2かめ”で集団的に支える～質の高い職員集団を目指して～ <ul style="list-style-type: none"> ・職員としての知識がひろがる学習をします。 ・管理職・主任・正規職員5名の会議を柱に、各部署との連携を密にします。 ・月一回の職員会議の充実を目指します。 ■ ビジョン2025を具体化していく <ul style="list-style-type: none"> ・第二メンバーにも大きくかかわる「新生活介護事業所」と「第二かめおか作業所の老朽化対策」を進めます。
2、利用者・職員状況
<p>利用者：33名（定員35名） 今年度新規利用者1名 今年度途中から入所施設こひつじを併用利用された方1名</p> <p>職員：16名</p>
3、実践内容と成果
<p>・メンバー支援について</p> <p>みんなの中で「頑張った自分」を認め合える集団作りを大切に実践を進めています。毎月のお給料支払いや夏・冬のボーナス取り組みは、個々の力を最大限認め合える場面ととらえています。ボーナスとりくみでは目標額が得られるように、メンバーの自治会長を中心に所長交渉を行っています。そのなかでは『お手紙作戦』として自分たちの要求や頑張りを、所長に相対してみんなの前で訴えます。そして読み上げた手紙を『どうだ！』と言わんばかりに所長に手渡す姿は回を重ねるごとに力強くなってきています。みんなのなかで『ボーナスほしい！』『がんばってんで！』を一人ひとりが主人公となって頑張る姿はみんなとともにつながり、みんな一緒に認め合える大事な取り組みです。</p> <p>また、役割活動を通して、“みんな”を意識したつながりあう集団作りも進めています。日々の支援の中ではどうしてもアクションが大きな方に職員が目が行きがちです。そんな中「何でもできる人」と思われているKMさんにも「注目される場面」「みんなの役に立っていると実感できる場面」を作ろうと、毎日『ごちそうさまでした！』を、給食おわりに声をかける役割をお願いしました。役割を重ねるごとに「今か今か」との声掛けのタイミングを見計る姿があります。みんなの中での</p>

役割活動が自分の自信にもつながり、周りのメンバーからも『がんばっているな〜』という評価につながりとなっています。

集団の場面でこそ、互いを意識し、つながりを実感できる場面となります。そんな場面が苦手なメンバーもいますが回を重ねるごとに少しでも参加も増えてきています。みんなと一緒に、楽しいかも、大事かも…と思える安心の環境づくりとその中でお互いに認め合い育ちあえる集団づくりを継続していきたいと思います。

・健康の取り組み

コロナ禍で作業所生活は、多くの制限、自粛がありましたが、できるかぎりの安全対策も取りながらこれまでの仕事の確保は継続してきました。そんな中で少しずつ、手洗い、マスク、消毒ができるメンバーも増え、積み重ねの力を実感することもありました。毎年の旅行や行事が中止となる中、それでもメンバーの生活と作業所での楽しみも含めたやりがいを手にする取り組みが重要であるととらええる限りの取り組みを行いました。仕事の労をねぎらい、みんなとつながり楽しめあえるよう工夫をした給料取り組みは、外出は控え、作業所にクレープ屋さんやパン屋さんに来てもらい購買。職員がスターバックスで買ってきたドーナツやコーヒーを作業所で食べたり、できるかぎり自分たちでがんばったお給料を自分たちの好きなことに使う。場面を作り、明日への活力！生活の彩となる場面も作ってきました。それでもなお、2月末から3月中旬までのコロナ禍での自粛生活は障害の重い人たちにとって、長期間家庭のみで過ごすことや日常リズムが崩れることでの大変さを改めて知ることとなりました。社会とのつながりを途切れさせない工夫が必要なこと、同時に毎日通える場(居場所が)が何より大切なことを再認識しました。コロナ禍の実態と合わせて、家庭支援、将来的な支援の多くの支援が必要な厳しい状況がいつそう浮き彫りになりました。とりわけ両親の高齢化や家族依存の実態など危機的状況も見受けられます。相談支援を中心にその人を丸ごと支える支援を関係機関と連携し構築していくしかありません。家族も含めた本人の安心、安定した生活を支える支援、社会資源の一層の充実が求められます。

・職員集団について

“気づき”と“集団議論”を大切にしてきました。毎週火曜日のPe会議(所長・主任を含む正規職員5名での会議)で、全体の支援の方向性や意思統一を図り、各グループの会議(水・木)ではケース議論を充実させメンバーが何を願い、思うのか?小さな変化に気づけるように報告・連絡・相談を徹底してきました。今年度はグループでメンバー状況の共有、支援内容を議論することを大事にしなが、いっそう丁寧に個に寄り添い支援することを目標にしてきました。十分にできたとは言いきれませんが、職員同士の強みも生かしながら支援の工夫を重ねてきました。その中でチームとしてメンバー一人ひとりをどう支えるか?を深めることができてきています。また、コロナ禍での感染予防対策、支援においては、いかなる困難な場面でも一人ひとりが積極的に対応にあたり“みんなで乗りこえた”チーム力がありました。引き続き社会とのつながりのなかでメンバーの願いをどう実現していくか!を次のステップに質の高い職員集団を目指します。

4、次期への課題とそれに対する取り組むべき実践内容

今年度は亀岡福祉会ビジョン2025の2年目でした。ビジョンの具体化に向けてはこれまで積み重ねてきた第二かめおか作業所での実践を未来へつづく一歩としながら新生活介護事業所新設に向けてビジョン推進委員会と連携してきました。第二のメンバー、事業所実態、また地域での障害の重い人たちの実態(丹波支援学校卒業生の実態等)も具体的に出し合い、一人ひとりが人生の主人公となれるような新生活介護事業所の設立に向けてイメージを膨らませています。第二全体での議論までには至っていませんが、ビジョン担当が責任と自覚をもってビジョン推進委員会に参加しています。次年度も引き続き、メンバー実践を深め事業等を整理し、より豊かな実践が行えるよう、より具体的に、より実務的に進められるよう連携していきます。